

第一章

序論

A. 問題の背景

第二言語の教授における読解はテキスト、読者の特性、教授のアプローチ、対話型のプロセスとしての読書方法などいろいろな問題が含まれている。第二言語における読む活動は、多くのジャンルに対処させる。例えば、文学、スケジュール、あるいは地図などである。タクスがいろいろな目標で読み、読者がテキストから意味を解釈することができるように、読む時に認知プロセスが必要とする。ストラテジーを決定することは、読解活動におけるコースデザインを立てるのに重要な要因である。他の言語のスキルに関係するスキルが発達するために、読解教授でいろいろな方法により指定できる。(ゴザリ, 2010:203)

クーン(1989)によると、学習者は大きなテキストの場面から言葉の意味を推測するあるいは言葉を認識するために、学習者は使用するストラテジーについて直接的に教えられるということが良いと思われる。カレル(1989)によると、ストラテジーのトレーニングはタクス以外に要因を検討しなければならない。即ち、学習者にメタ認知の意識についてトレーニングする。学習者が一定の読解ストラテジーのタイプを知るし、なぜ必要、どこいつどのようなそのストラテジーかは読解活動において行われる。ま

たは、どのようにその使用したストラテジーをモニタリングする（ゴザリ, 2010:218-219）。

スザンナ（2000:29）に引用されたカルデル（1995）によると、教授におけるメタ認知ストラテジーと言うのは、関連しているものに生徒の注意を向ける、いろいろな質問を通して問題を解決することに指導する。その意見に対して、スザンナ（2000:29）によると、メタ認知ストラテジーを用いる教授というのは、どのような計画、モニタリング、何か知っているかをコントロールする、及び問題がある時に学習者を支援するということがある。

本研究でこのテーマを取り上げる理由は、筆者はフォガルティ（1994）の意見によって賛成される。フォガルティ（1994）によると、メタ認知ストラテジーを用いる教授には三つの主な理由がある。即ち、1) 学習者がテキストの内容について詳細に理解が出来る。良い読者がどのような脳を使い知っており、読んでいるテーマについてに対する理解を発達させるために、メタ認知ストラテジーを使うのも知っている。学習者は様々な方法で考え方のストラテジーを使用することにより知識を構造する。そして、その使用するメタ認知のストラテジーは、学習者が自分の古い知識を認識し、問題を解決するために適当な方法を選ぶ。2) レベルが高い考え方に学習者を先導する。学習者には、考えるプロセスには勇気が必要とすると思われるのであろう。3) 学習者に成人期に向かい指導する。

したがって、筆者がメタ認知ストラテジーを用いる読解教授について実験的研究を行う。目的の一つは、メタ認知ストラテジーを用いる教授した学習者に読解力を向上を知るためである。

B. 問題の範囲

1. メタ認知ストラテジーを用いることにより習得する学習者に読解力の向上に対して有意義の違いがあるか？
2. 学習者がメタ認知ストラテジーを用いることにより教授に対して反応するのはどうなるか？
3. メタ認知ストラテジーを用いる教授により読解教授の過程はどうであるか？

C. 問題の焦点

本研究では、筆者は準実験的研究にしたがって 2009・2010 年度のインドネシア教育大学日本語教育学部の 4 学期の日本語の学習者に対して適用するメタ認知ストラテジーについて説明する。

D. 研究の目的

1. メタ認知ストラテジーを用いることにより習得する学習者に読解力の向上に対して有意義の違いがあるかを知る。
2. 学習者がメタ認知ストラテジーを用いることにより教授に対して反応するのは、どうなるかを知る。
3. メタ認知ストラテジーを用いる教授により読解教授の過程はどうであるかを知る。

E. 研究の意義

1. 理論的意義

筆者は、メタ認知的ストラテジーを用いる教授は、別の教授法として使用されると、多くの意義を持っていると考える。したがって、メタ認知ストラテジーを用いる教授は、活動を量るのではなく、コントロールや評価するためのプロセスを含む。

2. 実践的意義

a) 研究者のため

日本語教授に対して新しい方法を発見し、研究者には日本語を教えることで、より研究を動機づけする。

b) 学習者のため

1. メタ認知的意識を開発させることで、学習者は、困難を解決するだけでなく、情報を整理し、再認識し記憶するあるいは良いストラテジーを選ぶことも含まれる。
2. メタ認知的意識により、学習者は行った活動に関するモニタリング、評価をすることができることが望ましい。
3. 読解活動により学習者の読解力を向上させるために別の教授法を提供する。
4. メタ認知ストラテジーを使用する教授は、学習過程で学習者の知識を広げることが期待される。

c) 機関のため

1. 特に教育機関の質を向上させるために日本語の教え方に変動がある。
2. 今後の研究を開発させるための参考になると期待される。

F. 用語の定義

研究するものに対して異なっている解釈を避けるために、本研究でいくつかの使用する用語は次のように説明する。

1. メタ認知ストラテジーの教授と言うのは、学習者は取得した情報に対してどのような計画、モニタリングや評価をするなどと言う過程である。
2. 読解能力というのは、学習者が読書する際、作成者が伝えたい内容とテキストを理解する能力ということである。学習者が読み物を理解することができるように、読むテキストから情報を取ることができる。学習者の読解力は、認知的にいわゆる記憶、翻訳、作者の意見が分かるように評価することが見られる。

G. 研究の仮説

1. Ha: メタ認知ストラテジーを用いることにより習得する学習者の読解力を向上させるのに有意義の違いがある。
Ho: メタ認知ストラテジーを用いることにより習得する学習者の読解力を向上させるのに有意義の違いがない。